

## 会議録

- 1 附属会議の名称  
令和5年度第2回犬山市子ども・子育て会議
- 2 開催日時  
令和6年3月27日（水）午後2時00分～3時30分まで
- 3 開催場所  
市役所5階 501・502会議室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員 関谷みのぶ、橋村晴美、吉野孝博、田邊愛、大前和恵、神戸弥和  
松元尚夏、新井里恵、水野尚子、榊原吉峰、神谷勝治、岡田寿美代  
愛知洸、木村和美、小川隆広、大澤秀教
  - (2) 執行機関 滝教育長、小幡子ども・子育て監、上原子ども未来課長、伊藤主幹、  
中村主幹、青山課長補佐、石井統括主査、大洞統括主査、国枝主査、  
古田統括、中根主任主査、佐野（Next-i 株式会社）
- 5 議題
  - (1) 第3期犬山市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査結果の報告について
  - (2) 機構改革及びこども家庭センター設置について
  - (3) ヤングケアラー実態調査結果の報告について
  - (4) 屋内型キッズスペースについて
  - (5) 病児保育について
- 6 傍聴人の数  
0人
- 7 内容  
**【事務局】**  
定刻になりましたので、只今より犬山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。  
進行は私、教育部子ども未来課長の上原が務めさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。  
本日、委員の皆さまにおかれましては、公私ともお忙しい中、年度末ですが本会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。  
それでは会議の開催に先立ちまして、教育長の滝よりあいさつを申し上げます。

### 【教育長】

皆さんこんにちは。このところ雨が続いておりまして、今日久しぶりに青空になりほっとしているところでございます。この温かさでまた一気に桜が見ごろになるなど思っていますが、もうそんな時期になってしまいました。本日は年度末で極めてご多忙の中でありまして、子ども子育て会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

昨年のこの会で、令和4年の出生数が、80万人になったというようなことを申し上げた記憶がございましたが、令和5年、去年ののですが出生数は75万人ぐらいという報道を耳にいたしまして、少子化がますます加速化しているんだなということを実感しているところであります。

国も各自治体もそれぞれに少子化対策を行っているわけでありましてけれども、自治体独自の子育て支援策は結局、人の奪い合いをおこなうだけで結果的に少子化に歯止めをかけるところまでにはなっていないのではと思っています。子どもを増やすことは無理ならば、今生まれてきている子どもたちをいかに大切に育てていくのか。日本の未来を託せる子どもたちをどう育てていくのかを、私たちは本当に真剣に考えていかなければならない状況だなと思っています。今できること、そして今すべきことを継続しながらも、将来失望することなく、みんなで知恵を出し合って、犬山の未来、日本の未来が夢と希望に満ちあふれた未来となるように、皆さんと一緒に考えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 【事務局】

続きまして、関谷会長より挨拶をお願いいたします。

### 【会長】

皆さん、こんにちは。

名古屋経済大学の関谷と申します。本日は本当に年度末の忙しい中、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。先ほど滝先生もおっしゃってましたけれども、今いる子どもたちをどのように大切に育てていくかということですが、本日の議題にもありますように、調査の結果が出てきております。その中で、市として何が必要なのか、今の子どもたちを大切に育てていくには何が大切なのかということ、共に今日考えられるといいかなという風に思っております。

今日の時間では十分な時間というのはございませんけれども、また次年度につなげられるような様々な意見が、この中で出てくるといいなと思っております。

こうしたことが、今の子どもたちを大切にという思いが繋がっていけば、いずれ犬山でも子どもを育てていきたいという風に、その次の世代もつながっていくのではないかなと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 【事務局】

ありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます前に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料です。あらかじめ郵送でお送りさせていただきました。初めに次第、次が、資料1、第3期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査結果の報告について。そして、資料2、機構改革及びこども家庭センター設置について。資料3、ヤングケアラー1態調査結果について。資料4、屋内型キッズスペースについて。資料5、病児保育について。資料の不足、欠落がございましたらお申し出ください。

また、本日机の上に配布させていただきましたカラー刷りのものです。令和6年度子ども家庭センター運営体制とありまして、右方に資料2とあります。こちら資料2を差し替えさせていただきましたので、よろしく願いいたします。

資料の不足等ございましたら、挙手をお願いいたします。よろしかったでしょうか。ありがとうございます。

それでは、本日の会議でございます。開催時間を約1時間半程度と考えております。

進行につきましては、委員の皆様のご協力よろしく願いいたします。

本日の会議でございます。20名中16名の委員の皆様にご出席をいただきまして、過半数に達しておりますので、この会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、以降の議事の進行を関谷会長、よろしく願いいたします。

## 【会長】

では、よろしく願いいたします。

本日の会議の議事録署名者を先に決めさせていただきたいと思います。

木村委員と新井委員、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、早速ですけれども議事に入らせていただきます。

報告事項（1）。第3期子ども子育て支援事業計画のニーズ調査結果の報告について。事務局から説明をお願いします。

## 【資料に基づき、事務局説明】

### 【委員長】

ありがとうございました。

ただ、今事務局よりご説明いただきましたけれども、何かご質問ご意見等ございますでしょうか。

### 【委員】

アンケートの内容ということで、結果色々聞いて、孤立した子育てにいらっしゃるご家庭が、このアンケートの中で10パーセントは1割なんだなと思った時に、アンケートの自体は配った半分くらいの回収率だったということですが、例えば、うちの保育園でも60の家庭がいる、その中の1割かと思った時に、こういう数字を見た時に、自分たちはそういう家庭にどのような支援ができるのかということをしごく思ったのと同時に、1

番最後の満足度、犬山市の子育て環境や支援に対するおおむね満足だが、やや低い、低いと思っている方が 20 パーセントというところで、今回は数字の紹介でしたが、自由記述みたいところで、もし何か特徴的なことが出ていたら聞かせていただけると。自分たちも市内にある保育園として、どのような支援ができるかということを考えていきたいと思いますので、ご紹介いただけたらなと思いました。

#### 【事務局】

保護者については 16.6 パーセントしかなかったという回答で、こちら 10 人が 1 人ということで、数で分析した結果を見ると、やはり多いかなという風に思っております。こういったやっぱり小学生よりも就労前児童の保護者の方が、孤立した環境が多いということで、支援センターやそういった今ある地域資源等を周知していきなるべくそういった場を広げていく必要があるということを実感いたしました。

あと、こちら、子育て環境や支援に対する満足度で、就学前児童 71.1 パーセント、小学生で 75.2 パーセントということで、こちら、犬山市に対する満足度、おおむね高い、高いな、良かったなという風に思いましたが、それでもやはりそうやって思っていない方も見えるので、今、犬山市でもそういった子育て支援にかかる施策とかですね、そういったものを行っておりますので、保護者の意見を組み取って、今ある地域資源やサービスと共に、何かできることがあればということをお思っております。

自由記述については、先ほどお話しました満足度で言うと、施設、そういった遊ぶ場が欲しいとか、そういった要望もありましたので、今ある屋内型、これからの説明ある屋内型キッズスペースとか、そういった安心して遊べる場の提供をすることでまたその満足度も高めていくことができると思いますので、市民の方からの意見とかも含めて、子育て支援の政策に反映していきたいと思っております。

#### 【委員】

ありがとうございます。

特に自由記述は、その遊び場とかのところが主な内容だったということでしょうか。でも、いろんなことを考えていくと、その貧困のことですとか、孤立しているというところで何かご意見があればということもあるかと思っております。

#### 【事務局】

はい、意見について。

児童クラブとか、あと教育とかですね。さっき言った公園や遊び場についてということで説明させていただいたんですが、子育て環境については、やはり家庭の環境が安心・安全でなければ、豊かな育ちと言えるだろうかと感じているとか、親自身が経済的にも苦しいとか、意見とかもありますので、さっき言った貧困の調査とかそういったことで、貧困とヤングケアラーも関連性があるということもお話させていただきましたが、そういったところも新たに施策に反映していければいいなと思っております。

**【会長】**

ありがとうございました。よろしいですか。  
では、その他、ございますでしょうか。

**【委員】**

今回、第3期子ども子育て支援事業計画の調査ですが、ちなみにこの子ども子育て支援事業計画ってどうやって進めるのでしょうか。

**【事務局】**

第3期子ども子育て支援事業計画が令和7年度から令和11年度の5年施策ということで取り組んでいくこととなります。

今後のスケジュールといたしましては、令和6年度は先ほどタウンミーティングのご紹介もさせていただいたんですが、タウンミーティングで「市長と語ろう会」ということで、そちらの方でも市民の方の意見を聞く。そして、こちら実施させていただいたアンケート結果。こちらの分析をもとに、子育て支援事業計画を策定していくことになっております。

今年度については子ども子育て会議は2回でしたが、来年度については、そういったニーズの検討や確保方策の検討等、そういったものをおこなっていくために、子育ての会議を3回予定しております。

**【委員】**

せっかく計画していくので、色々関わりたいと思っています。どういう風に進めていくのかなと思い、気になって確認しました。

できればですね、市としてどういう理想を描いているのか、どういう目標を設定しているかについてはやはり見ていきたいと思っています。やっぱりそこに、目指していきなきゃいけないか、そこを明確にしてほしいというところと、先ほど岡田先生もおっしゃってたんですけど、定量的な情報だと思うんですけど、やはり定性的なところというのを引き出しながら やっていくことが必要だと思います。やはり先を見たことと、目先のことというのは、今は目先のニーズというところをだけだと思いますが、もうすこし先を見て、最初教育長からお話があった通り、人口減少していく社会がもう明らかになるので、そこを見据えた10年後、20年後の想定と、この先のニーズというのを両軸で業績で考えていく必要があるのではないかと思いますので、そういうところ、をみていきたいと思っています。

**【会長】**

ありがとうございます。

定量的なところも含めてですけども、長期的なビジョンとまずそこに向けてというところも、色々な形で目標が私たちが分かるように出していただけるとありがたいです。

その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、もしまた何かお気づきの点ございましたら、最後にでも構いませんので、ご発言ください。

では、続きまして、報告事項の2点目になります。

機構改革及びこども家庭センター設置について。事務局より説明をお願いします。

**【資料に基づき、事務局説明】**

**【会長】**

ありがとうございました。

何かご質問、意見等、ございますでしょうか。

**【委員】**

障がい者の相談支援事業をやっておりまして、それも児童福祉法の中の位置付けとなっているのですが、市の体制としましては、障がい者の子ども達、大人もですが、それはどこらへんに位置付けがあるのか。教えていただきたい。

**【事務局】**

障がい者の子どもにつきましては、基本的にその障がい者支援ということであれば、我々としましては個別になってしましますが、こすもす園という施設を持っておりますので、そちらの中で支援を行っていくことになります。

**【委員】**

児童福祉法の中で障がい者の方の支援センターというのは、1番先頭にくると言い方は失礼なんですけど、障がい児の支援センターを元にして、障がい者などにも少し目を配っていただいて、どこが管轄するのか。市の児童発達支援の事業ですが、児童発達支援事業所と児童発達支援センターが結びついてきます。もうちょっとそのあたりを一緒にやっていけるように。保健センターもそうなんです。今、子どもの会議ですよ。子どもの会議であれば、そちらの方を入れていただくと明確かなと。迷わないかなと。今、保育園の先生とか幼稚園の先生来てらっしゃるんですけど、やはりそういう問題が本当にあるというか、一緒にやっていく部署みたいなのが今ありますので。こういった組織の中に少し入れていただいて、手を取り合って子どもたちの健やかな成長というのを見守っていきたいなという風に思っておりますので、できましたら少しここに付け加えていただけるとありがたいです。

**【会長】**

ぜひご検討ください。

業務がこう細分化されていってはどうしても切れることが起こりますので、こども真ん中という風に言われてずっと進めていかなければならないことも、やっぱり色々なところで声を聞きながら進めていただければと思います。どうぞよろしく願います。

その他、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、続いての報告事項に参りたいと思います。3番目です。ヤングケアラー実態調査結果の報告について。ご説明をよろしく願います。

**【資料に基づき、事務局説明】**

**【会長】**

ありがとうございました。

ただ、今ご説明いただきましたけれども、何かこの点に関しましてご質問、意見ございますでしょうか。

**【委員】**

そもそも今、助けを求めやすい環境作り、通いやすい社会の仕組み作りをしなければいけない世の中になってしまったのか。この因果関係っていうのはどういう認識でしょうか。今までこういうケアが必要じゃなかったんですよね。なぜこれが必要だったんですか。なんかこの原因にはあまり向き合う動きはあまり方針としてはないということでしょうか。

**【事務局】**

ケアが必要でなかったっていう訳ではなく、こういった子ども達はこれまでもいたと思います。

それがよく分かっていなかったことが、最近お手伝いをしなくちゃいけない方がいたり、本来子どもが享受できる時間を過ごせない子どもたちがいることが分かってきたということで。元々こういった子どもたちっていうのは居たのではないかなという風に考えております。急にできたわけではないと、そういった理解です。

**【委員】**

今までこれは無視をされてきたってことですか。それとも世の中が変わったということですか。

**【事務局】**

無視という表現は…。ただ、気がついていなかった、分かっていなかったことではないかなということで、目を伏せていた、無視をしたとか そういったことではないと思います。要は、気づいた分かってきたから、これは支援しなくちゃいけない。そ

れは我々も分からなかったし、子どもたち自身もそれが普通だと思ってしまうている子どももいるかもしれない。そこについて教えていく、子どもとして享受していく。時間を与えるようにしなくてはいけないというのが我々の考えです。

#### 【委員】

ごめんなさい。仮説ですが。助けを求めやすい環境が昔はもうちょっとあった。頼りやすい社会、仕組みというものがもう少しあったのではないか。しかし、それがなくなってきてるんじゃないかなと。そこをなんか向き合うっていうことも、1つ大事なことなのかなと思いましたという意見です。

#### 【事務局】

はい、了解いたしました。ありがとうございます。。

#### 【会長】

少し背景に補足させていただきます。世の中なかったわけではなく、世の中全体にあったものが、今、私たち自身もそうですが社会がその人としての権利だとか、子供の権利というところにだいぶ意識がいくようになった結果、こういったところにも目が行くようになったのではないかと思います。それに合わせて、さっき言われたみたいに、求めやすい環境っていうのも昔はなんとなくあったものが、その社会が変わっていくことによって、なくなっていったもの。それが様々な災害とかそういうの中からもう一度大事だよねという風に見直されてきたっていう。色々な要素が重なって今見直していかなくちゃいけない。

その前の虐待もそうですし、子どもの貧困とかっていうような、今社会で課題になっているものの着眼点とか、そういったものと同じような形で、今ようやく目が、皆さんがそこに気づき始めた。で、それを言われることによって子どもたちも、私って自分の権利が守られていないというようなところに、子どもたち自身も気づくようになってきたことが、多分大きな背景にはあるかと思えます。

大事な課題だとは思いますが、また皆さんと議論ができればと思います。

その他、ございますでしょうか。

#### 【委員】

支援するということですが、すでに社会介護、福祉とこのサービスを利用されている方の中から、事業者さんからの情報を提供する、いただいて、改善に繋げるっていうのもあるんですが。実際にそういう事業者様とかたくさんあると思いますが、そういうところからお子さんたちでそういうことをしなくちゃいけない状態になってるから、支援するための連絡先みたいなのは、市内の事業者さんにしてほしいというお願いや協力というのは、もうすでにされてるものでしょうか。

### 【事務局】

はい、現在まだ決まっておりません。今アンケートが終わったところでして、今後そういうことをやっていただかなくちゃいけないということで、ちょっと今日は提示しておりません。

### 【会長】

ありがとうございました。

### 【委員】

先ほど説明ありがとうございました。ヤングケアラー。今まであったけど気がつかなかった。当たり前だと思っていたけれど、これは当たり前じゃないんだよってということで、最近分かってきた。これすごい大切なんですよ。そう思います。今回こうやってアンケートをされて、大事なことはアンケートをされたので、これもやっぱり分析と今後の取り組みってということがすごい大事だと思います。今回分析が記載されていながら、今後の方針について書かれています。ヤングケアラーを見つけて支援する。大事なことです。これすごい難しいことだと思うんです。

そういったこともある中で、今回ここに記載されている以外に、何かこう分析されてること。それと、今後、現段階で何か取り込んでくようなものがあれば、お示しいただきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

### 【事務局】

分析については、我々が思ったところでは、そういった家事援助であったり、そういったことが支援としてになってくるのかなってことは分かりました。ただ、実際ですね、例えば介護であったりとか、障がいであったりとか、そういった様々な分野で、ヘルパー事業とかですね、そういったサービスメニューってというのはある程度用意されているんです。

そういったのがしっかりしてるようになれば、こういった子どもたち、ケアラーさんたちの支援に繋がっていくことが分かりました。ですので、新たに何かしなければいけないということではないのでは。そういった状況ではないんじゃないかということがよく理解ができました。

その上で、どういった支援をしていくかという話ですが、今考えているこの周知を図るために、例えば、会議があったりしますので、そういった場を使って研修会を開催してヤングケアラーがどういったものなのかとかですね、そういったことはまずやっていきたいと考えております。あとは、個別の事業所さんの集まりとかあるのであれば、そういったことにも出向いて行って、説明していく。出前講座みたいな感じのことをやっていきたいなということは考えております。

**【会長】**

ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、すいません、司会をしながら恐縮ですが、1点質問させてください。

そのヤングケアラーに関して、スクールカウンセラーというのが例えばで書かれています、支援につなげていくにはスクールソーシャルワーカーの役割も非常に大きなものがあるのではないかと考えています。

実際に今犬山市の小中学校の中にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーさんがどの程度配置されてるか。もし分かれば教えていただけますでしょうか。

**【委員】**

人数ですよ。中学校には4校はありますか。1名ずつで小学校は2名から14校に対して、今小中と同じ人が行くようになったので。単純に小学校にという数字では表せないです。そうすると、市内14小中学校で4名。

**【事務局】**

4名から6名という。4名とスクールソーシャルワーカーは1名おります。各学校を回ると同時に、教育支援センターという、ゆうゆうとわいわいという施設があります。そこを行ったり来たり、学校現場を行ったり来たりしながらですね、子どもを中心に焦点を当てて、色々子どもに対してどんなサポートが必要かということ、学校、それから教育支援センター、時には家庭にも働きかけをして、なんとか子どもたちが生きやすいような、そんなサポートをしてるところです。

**【委員】**

今、スクールソーシャルワーカーの配置が始まってから、4人でこの校区の小学校に残りの時間を、中学校には週1で、その残りの時間を同じ方で連携して小中と受けるというシステムに作り込めなかった。

**【会長】**

どうもありがとうございました。それでは、聞きたいことを聞いてしまいました。

この3番目の報告事項につきまして、質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、4点目に移りたいと思います。屋内型キッズスペースについて。ご説明よろしく願いいたします。

**【資料に基づき、事務局説明】**

## 【会長】

ありがとうございました。何かこの件に関して意見等、ございますでしょうか。

## 【委員】

屋内型キッズスペースを多分今回進む方向になると思うんですけど、これを建設整備、設備整備の収支がどんな感じなのかという。ランニングコストがどのくらいかかるのかについて、少し気になります。このアンケートを取ってるのも、これできたら利用しますか、どこでどこだったら利用しやすいですかと言ったら、自分の住んでるところの近くっていいですよ。このアンケートの目的の意図が分からなかったんですけど。例えば市でこれを運営するとなれば、市の予算もそこの支出として増えるわけなんです。そこをどこまでこのアンケートを取った人がデメリットの部分というか、ランニングコストがかかることについて、どこまで把握してくれてるのか。このアンケートの目的が方針を決定するっていう根拠として、通過経営的にやってるのか。その辺が聞いてて気になりました。

前回の会議でこの件に話はちらっとお話ししましたが、あったらあったらでいいと思うのです。メリットだと思います。住んでる人からしたら。しかし、行政の機能を増やすことによって、今後人口がどんどん減っていく中で、本当にそれが最適なものなのかというのは、長期的な視点というのはあった方がいいのではないかと思います。色々な課題がある中でも、これをどうしても進めなければいけないという理由がどこにあるのかっていうのが、先ほど最初に教育長のお話にあった通り、競争するのかわという姿勢に感じてしまう。そこが気になって、前回から引き続きお話をさせていただきました。活用できるようにお願いします。

## 【事務局】

コストについては、具体的にいくらと明確に出されてるわけではありません。

ただ、ヨシヅヤの2階という場所に設定したのは、アンケートの結果による部分もありますが、例えばその新設で作った場合、その場合の利用年数ですね。どの程度使っていくのかと考えた時に、50年間同じでやっていけるのかと言ったら、多分そうではないと思います。

既存の施設を使って改修して、例えば15年とか20年その程度のスパンで考えていった方が、コスト面で適切なのかなというように考えました。

おっしゃる通り、お金についてはやはり負担がかかっていることは間違いありませんので、コストを削減できるような場所をということで考えながらやってるところであります。

## 【委員】

私もヨシヅヤにあるのは賛成です、場所としては。新しく新設するのは非常にコストがかかるのでございます。

この方針を決定するにあたって、その辺の試算をしてないのでしょうか。

これは誰が決定しているのでしょうか。

**【事務局】**

もちろん検討はしておりますが、この場ではお話控えさせていただきます。

新築で作った場合、こういった施設を全部改修して作った場合、当然検討しておりますので。この場では公表できないところがありますので控えさせていただきます。

**【委員】**

この方針を決定するのは、どこが決定するんですか。

**【事務局】**

部長級、市長まで含めた幹部会議がありますので、その経営会議で方針を決定し、ヨシヅヤ2階に整備することが決定しております。市長独断ではありません。

**【委員】**

ここでは基本的には報告ということでしょうか。わかりました。

以上です。

**【会長】**

ありがとうございました。その他、ございますでしょうか。

**【委員】**

こうだったらいいな、ああだったらいいなみたいな意見というのは、反映していたけるんでしょうか。

**【事務局】**

はい、これから整備の内容については検討することになりますが、当然ですが皆さんの声を聞きながら、反映できるところを反映して整備していきたいと考えております。市や事業者の考えだけで整備することではなく、利用者の方々の声を聞いて作っていきたいと考えております。

**【委員】**

アンケートとか送られるということでしょうか。

**【事務局】**

想定としまして、アンケートっていうこともありうると思いますが、例えば代表の方々に集まっただいてワークショップを開いたり、そういったことを検討しておりますが、具体的な案は決まっております。

**【会長】**

大前委員、ぜひその機会があったらご参加ください。  
その他、ございますでしょうか。

**【委員】**

質問ではないですが、私も6歳10歳の子どもがいて、市内にキッズスペースできたらありがたいなと思ってます。実際私、遊びに行くって言ったら市外まで行っているの。

ただ、今回の場合は屋内型キッズスペースということですが、市内多分いくつか公園があると思うんですが、この話をしている気になったのが、公園の整備はどれくらいのペースでしているのかというのが気になっています。

夏に遊びに行った時にトイレを利用したいと思ったのですが、屋外の公園のトイレは利用しにくいんです。正直言うと汚いとか、暗いとかそういうのもある。その公園の整備はどのようなペースでしていて、今実際ニュースでも子どもがうるさくて利用しないというのを聞いたりとかもするので、子どもの声がうるさいのかなっていうのもあるんですけど、そういった意見が多いと公園も無くなってしまいますし。気になったので聞いてみました。

**【事務局】**

公園につきましては、私たちの課で管轄している部分ではないので、どの程度のペースで改修しているかについては、申し訳ございませんがすぐに答えできません。必要であれば担当課に確認しまして、改修の頻度等について内容を個別に回答させていただきますので、よろしくお願いいたします。

**【委員】**

個別とまではいなくてもいいですが、気になりましたので。

あと、できれば市内のどこら辺に公園があるとか、何かそういったマップがあるとありがたいと思います。googleマップで調べていたりとかしますが、マップに出てきても公園名が分からないとかもあります。そういうのも分かればいいなと思いました。

**【事務局】**

マップについてはあればご提供させていただきます。現状、私どもでは把握はしっかりしていないです。申し訳ございません。

**【会長】**

先ほどのご質問の整備についてですが、もし可能でしたら議事録に記入していただくと、ご回答を皆さんで共有できると思いますので、可能な範囲で構いませんので、よろしくお願いいたします。  
その他、ございますでしょうか。

**【会長】**

よろしいでしょうか。

では、続きまして最後の報告事項になります。5番目ですね。病児保育についてご説明よろしくをお願いします。

**【資料に基づき、事務局説明】**

**【会長】**

ありがとうございました。この件に関しまして、何かご意見、質問等、ございますでしょうか。

それでは、用意いただいた報告事項5点これで終了いたしました。

最後になりますが時間的にはそれほどたくさんありませんが、何か今日の議題以外でも、子ども子育てに関わるところでこれだけは言っておきたいというようなことがございましたら、ぜひご発言いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

**【委員】**

先ほどの公園の施設に関しての話で、私が関わっている事業で関連がありますので、発言させていただこうかなと思います。

地域活動連絡協議会というボランティアの会なんですけれども、公園の遊具 安全防犯点検というのを毎年市内の公園で行っていきまして、私たちの母親の目から見て、利用者目から見て、ちょっとこれは危険だなと思うようなことを調べて、こども課に報告させていただくことをさせていただきました。先ほどトイレがちょっと使いにくいというお話がありました。来年度も報告に行きますので、お話させていただけたらなと思いますので、お話させていただきました。

**【会長】**

ありがとうございます。貴重な活動とご意見を本当にありがとうございます。

また1年よろしくをお願いします。

その他、ございますでしょうか。

**【委員】**

私が知らないだけかもしれませんが、北小学校区の児童館はないですよね。北小学校区に住んでるんですけども、お店をやっておりまして。

私、子どもが3歳で子ども背負いながらやっていて、そうしたら、あれよあれよと赤ちゃん連れてお母さんが集まるようになって。ちょっとしたサークルみたいになって、今も仲良くさせていただいてるんですけど、その1人のお母さんが、このお店が私の孤独を救ってくれたって言ってきて、すごい嬉しくて。でも、そういう役割を担えて私はすごい光栄ですが。さきほどのアンケートで10パーセントの保護者が孤独であるというところにすごいびっくりしまして。多分、他のお店屋さんもあると思いますが限りがあります。行政の窓口としての子育て支援、気軽に入れる近所の児童

館があったら、もっといい街になるなと思いました。北小学校区の児童会の設置予定は今後ありますか。

#### 【事務局】

ご質問ありがとうございます。北小学校区の児童館は令和2年3月に閉館しておりますので現在ありません。今後児童館として建設するかというところですが、現在のところ予定はありません。そのために、近くの児童センターを案内したり、犬山の図書館でブックキャンプがあるんですけども、そこに月1回、児童センターの職員が向いてぼんぼこという保護者の方を対象にした活動を実施しております。

なかなか来てよかったというご意見もいただいていますので、また寄っていただけるといいかと思います。6年度も実施していきますので、活用していただけたらと思います。

犬山西児童センターや犬山南児童センター、少し北小学校区からは離れておりますけども、またそちらも使っていただけたらなと思います。よろしくお願いします。

#### 【委員】

車がないというお母さんも結構いて、そういう方たちにはちょっと遠いなと感じています。

以上です。ありがとうございます。

#### 【会長】

それでは、その他よろしいでしょうか。

#### 【委員】

本当何回も申し訳ございません。今のお話いいなと思って。行政がどこまでやるのかってところ、行政はサービスではないと私は思っています。一緒にみんなで自治をする、自ら納めていくような組織であるべきではと思いますので、私がキッズスペースをやるとかこれをサポートするとかっていうのもすごい大事だと思います。

セーフティネットというのはすごく大事だと思いますが、でもやはりその次1歩踏み出すところは、色々な民間と一緒にやっていくっていうのは大事ではないかと思っています。こうやって大前委員のお店のような場所を逆に行政がサポートしていくとか、ボランティアでやっていただくなど、組織の人たちをサポートしていく、そういう方向に今後こうなっていった方がいいんじゃないかという、さっきから言ってる長期的なビジョンというところは、やっぱそういうところに置いていくべきなのかなと思っています。多分行政もすごい皆さん大変だと思っていますので、みんなで協力していくにはどうやったらいいのかというところを一緒に考えていきたいなと思っています。

幼稚園もそうですが、私お寺もやってまして、お寺もそういう場所であるべきだと思っていますし、そういうところをもっともっと作って行って、救われたっていうところをもっとサポートできるような犬山市になるのが理想だなと思っています。以上です。

**【会長】**

ありがとうございました。  
橋村副会長。お願いいたします。

**【副会長】**

今日、色々こういうお話があつて、また、犬山市で色々取り組みをおこなっていて頼もしいなと思つてはいるのですが、ただ、やはり今回、次の第3期の必要な情報となった時に、数値の低いもの、そういうところにもやはり着目していくべきなのかなと思つました。これについて、こういう風にしていこうという新しい施策を、どんどんやればいいのかと思つてはいるのですが、むしろ、アンケートをして、自分たちところが広がらないだろうなと思つても、やっつけてくださっておられる方が見えると思うので、こんなところで数値が低かつたものも、きちつと洗い直して、そこにどういう風な意味があつて、どういう背景があるからどうしていけばいいのか、そういうことも考えていくことが、他の自治体になつた犬山市の良さを出すところだと思つたので、今後視野に入れていただき、また皆様と一緒に話し合ひができたらいいなと思つております。ありがとうございました。

**【会長】**

ありがとうございました。時間がちょっと気になってきましたけれども、予定の議題が終了いたしましたので、事務局にお戻りいたします。

**【事務局】**

ありがとうございました。関谷会長の進行と、委員の皆様の貴重なご意見、次年度に向けた計画に向けた数々のご意見いただきました。

また、現状であつたりとか課題だつたりとかそのところを洗い出して、今後の計画に反映させていきたいという新たな思い、ここでいただけたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。非常に有意義な会議になったことも合わせてお礼申し上げます。これで本日の議題を終了させていただきます。

最後に、小幡子ども子育て監より挨拶申し上げます。

**【子ども子育て監】**

皆さん、本当に今日貴重な意見をたくさんありがとうございました。やはり色々なお立場から意見をいただくので、私たちも気がつかなかつたことや、はつとさせられることもありました。また、来年3回開催いたします。またここでもまたご意見いただけたらと思つております。

そして、来年度、機構改革の話もありましたけれども、子ども未来課と子育て支援課に分かれますが、両課で力を合わせて、子どもたちの明るい未来のために頑張っていきたいと思つてますので、またご協力よろしくお願ひいたします。

今日は本当にありがとうございました。

## 【事務局】

それでは以上で本日の会議終了させていただきます。皆様にはお忙しい中、長時間にわたりご協議いただき、誠にありがとうございました。

お帰りの際には交通事故等に十分お気を付けいただき、お帰りいただきますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。

## ■会議中の質問（公園の改修）について

P13 で触れられた質問について、会議終了後に担当課へ確認したところ、次のとおりでしたので、議事録への掲載をもって報告とさせていただきます。

- ・公園の遊具に関しては2か月に1度の定期点検を実施している
- ・定期点検の結果、危険度に応じて修繕が必要と判断した遊具から修繕している
- ・トイレに関しては、状況に応じ修繕を必要とする箇所から優先して修繕している